



フッサール現象学の研究： いかにして意識を超えた存在者が意識において現象するのか



キーワード フッサール/ 知覚の現象学/ 超越論的論理学/ 現象学的倫理学/

どのような研究をなぜ行っているか

E・フッサール（1859-1938）の現象学を手掛かりとして、次の問いに取り組んでいます。
いかにして、事物、普遍者、価値などの「存在者」が、意識において現象するのか？

具体的には、上の問いから派生してくる以下の三つのテーマを並行的に研究しています。

① 知覚の現象学：

知覚における意味志向作用を反省的に捉え、意識が意味において事物を構成する過程、ないしは意識が意味を通じて事物を志向する過程について、「指示の理論（theory of reference）」に従事する分析派言語哲学との対話を通して解明します。

② 超越論的論理学：

命題や真理などイデア的形体に関して、意識におけるその発生的起源を、前述定的経験のロゴス、たとえば内的時間意識やキネステーゼ、受動的総合といった諸原理に遡って開示します。

③ 現象学的倫理学：

〈事実判断に明証性を与える知覚〉と〈価値判断に明証性を与える感情〉との並行関係に着目し、言語哲学における「感情の認知理論」と現象学を比較しながら、判断の道徳的正当化に関わるロゴスの一般法則を究明します。

以上のように、現象学の方法によって開かれる直接体験の領野に定位して、意識と多様な存在者との原初の出会いを可能ならしめるアプリオリな諸条件を探究しています。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

学問は研究対象の存在論的カテゴリーの違いによって、互いに異なる固有の研究領域へと枝分かれしていきます。このことは、ともすると個別科学の蝸壺化という状況を生み出しかねません。本研究は、諸科学に通底する正当化の文脈を現象学の視角から統一的に描き出すことによって、共通の議論の土俵を設定することに寄与します。また、道德教育への貢献として、学習者が主体となって行う「価値の明確化（values clarification）」の内実や意義を、道德判断を行う主観の視点から理論的に解明することができます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

上記の知見の一部については、下記の講座の内容に反映させました。

- ・小学校若手教員育成研修講座（道德科）（2019年度-）
- ・ならやまオープンセミナー 奈良教育大学教員による現職教員のための公開講座（道德科）（2018年12月26日、2019年12月26日）